

平成二十六度

目黒星美学園中学校入学試験（国語）

第一回

〈午前入試〉

※ 答えはすべて解答用紙に書きなさい。

受験番号	
氏	名

「二」次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

① 彼女は黒い服をよく着ていた。黒もうまく着ればスタイリッシュだが、彼女の場合は隠れ蓑かくみというか、A というか、どうにも暗い印象である。一言で表すなら「地味なひと」。そう誰だれもが思っていた。

小柄こがらで色白で、よく見るときれいな顔立ちをしていた。が、それも黒っぽい服に隠されて、ほとんど気づかれないのではないか、と思われた。

彼女は山の仲間だった。原色のものが多い山の装備ですら、黒とグレーという、よくぞ見つけたというほどの地味さで、B 目立つ、というおかしなことになっていた。

あるとき、一緒に山に行き、ふもとの温泉に「泊とどした。朝食のとき、仲間の一人が「夢を見た」と言う。登場人物は彼女だった。

「あのね、珊瑚色さんじのすごくきれいなドレスを着て、ブルーの花束を抱えてね、誰かと楽しそうに踊おどっているのよ」

「へえ、素敵！」

仲間たちが口々に言っ、彼女を見た。彼女もうれしそうに笑っている。

「珊瑚色さんじか。似合いそうだね」

とわたし。

「そんな色、着たことないわ。一度も！」

「いつも黒が多いよね。黒が好きなの？」

この際だから訊きいてみた。すると、意外な返事が返ってきた。

「そういうわけじゃないのよ。どうしていいか、わからないの。なにが似合うのか、どんな色がいいのか、わからなくて、つい黒っぽい、目立たないようなものを選んでしまうのよね」

いまの世の中、これだけさまざまな服が、色があふれ、よりどりみどりののに、なにが彼女を困惑こんわくさせているのだろうか。

② 「ねえ、思い切って夢のなかみたいに、珊瑚色さんじなんて着てみたら？」

わたしが言うと、どんな色なのかわからない、と戸惑とまどっている。

「ちよっと黄味きがかった暖かいピンクで、素材はモヘヤのセーターかカーディガンがいいと思う。それにきれいなシルエットのブラウンのスカートをはくの。そうしたら、それほど違和感なくイメージ・チェンジできると思うよ。あなたはとっても色白だから、きっと似合うはずよ」

それからしばらくして、仲間たちとの食事会でふたたび彼女と会う機会があった。

少し遅れてやってきた彼女を見て、心のなかで「やった！」と声を上げた。

やわらかなピンクページジュのボウ・ブラウス。その絹のとりりとした感かん触しよくが、小柄な彼女をふつくらと豊かに見せている。胸元には白い真珠しんじゆの長めのネックレスがつかやかな光を放っていた。

同席どうせきしていた男性たちが、一瞬いつしゆん、息をC のがわかった。まるで別人だったからだ。カナダ人の男性がすぐに立って、彼女の椅子いすを引いた。

「きれいですね。素敵です」

彼はためらいなく英語で言った。

I

わたしは感動していた。服は、そのひとが人々の渦うずのなかから発見されるためにある。

黒っぽい色で自分を覆おほい隠かくしていたときから、それを脱ぬいで、自分の色をまといはじめた彼女は、やわらかでみずみずしい。

「このブラウスを買ったときね、似合うって思ったの。それまでなにが似合うか、よくわからなかった。なにを着ても似合わないような気がしていたけれど、でも今回は、鏡を見てハッとしたのよ。似合うって、こういうことなんだな、って思った」

「どんな感じ？」

「自分と服とがばつと一体化して、すうつと上に引き上げられるっていうのかしら。鏡のなかから、自分が浮うき上がって、こっちにまっすぐ向かってくる。そんな感じだった」

服は、色は、ひとを高めるためにある。社会から覆い隠すためではなく、くつきりと浮かび上がらせるために。

そして着るひと自身も、新しい色を選ぶことで新しい自分を発見することができるのだ。

それから彼女のスタイルには、少しずつ色が加わっていった。いつか、仲間の見た夢のように、華やかな大輪の花のようなドレスで踊ってみたい、と言うが、そこまで行かずとも、きれいな淡い色合いは彼女の雰囲気ふんいきにみずみずしさを与え、くすんでいた過去のスタイルがうそのように明るい。

以前よりよく笑うようになったし、性格も明るくなってきた。それが本来の彼女だったのだろう。

「地味なひと」などというものは、本当は存在しないのかもしれない。

④ 女は、ひとりひとりが自分の色を持つ花なのだ。花には香りもあり、やわらかにふるえる花びらに朝露あさつゆがこぼれる。その咲かせ方を発見することさえできたなら、大輪の花で日本はいつぱいになるだろう。

（『あなたは欠けた月ではない』 光野桃）

問一 A C に入ることばとして適切なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- | | | | | | |
|---|-----------------------------|-------|--------|--------|--------|
| A | ア 極彩色 <small>ごくさいしき</small> | イ 保護色 | ウ 玉虫色 | エ 暖色 | オ 寒色 |
| B | ア とにかく | イ やはり | ウ たちまち | エ かえつて | オ そのまま |
| C | ア のむ | イ すう | ウ はく | エ 入れる | オ 殺す |

問二 線部 a 「れ」と文法的に同じ用法のものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 最後まであきらめずに走れたことをうれしく思う。
イ 校長先生が話されたことについて話し合った。
ウ その感動的な光景に自然となみだが流れた。
エ バスでお年寄りに席をゆずったら喜ばれた。
オ アルバムを見るとその時のことが思い出された。

問三 線部 b 「いつか」が直接かかる部分を次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 夢のように イ ドレスで ウ 踊ってみたい エ みずみずしさを オ 明るい

問四 本文は前半部と後半部の二つに分けることができますが、次のⅠ・Ⅱの問いに答えなさい。

Ⅰ 後半部の初めの五字をぬき出しなさい。

Ⅱ 前半部のキーワードと言える語を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 選ぶ イ 隠す ウ 見つける エ 目立つ オ 感動する

問五 線部①「彼女は黒い服をよく着ていた」とありますが、その理由が具体的に語られている一文を本文中からさがし、その初めの五字をぬき出しなさい。

問六 線部②「ねえ、思い切つて……珊瑚色なんて着てみたら？」と、筆者が「彼女」に言ったのは、筆者が「彼女」について、どのような見方をしていたからですか。その見方が書かれている連続する二文をこれより前の本文中からさがし、初めの五字をぬき出しなさい。

問七 線部③「やった！」と筆者が思った理由を説明した次の文の空らんに入ることばを、これよりあとの本文中から十字でぬき出しなさい。

彼女が「
」ことができたのをうれしく思ったから。

問八 I に入ることばとして適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア ほんとうに彼女の服は素敵！
イ 彼は人のよさを発見してやるのが上手！
ウ やっぱり彼女はきれいだったんだ！
エ ついに彼女は発見された！
オ 外国の人も彼女の美しさを認めた！

問九 線部④「大輪の花」がたとえているのは、どのような女性ですか。次の中から適切なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 誰にも負けない自分の美しさに気づいた女性
イ 自分に合う香水や色をうまく使える女性
ウ 自分自身がもつ美しさを現して生きる女性
エ 大輪の花のような美しいドレスを着て踊る女性
オ 本来の地味さを捨てて明るくよく笑う女性

問十 筆者の考えと合うものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア ファッション・センスを磨みがけば、自分の暗さをうまく隠せるようになる。
イ 珊瑚色のドレスは着る人を豊かに見せ、見る人に感動をもたらすことができる。
ウ 暗くて地味な性格を変えたい人は、きれいな淡い色合いの服を着るとよい。
エ 明るく笑うことで、自分の本来の美しさを発見していくことができる。
オ 似合う服は、それを着る人の存在を人々の中から引き立たせてくれる。

【二】次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「楽しさ」を探す行為^{こうい}というのは、「自分」を探す行為とほとんど同義であるように感じる。おそらく、両者の違いはほとんどないと言っても良い。というのも、誰でも思い描くあるべき「自分」というのは、普通は「楽しい自分」なのである。

まず、一般的に言える傾向^{けいこう}として、自分に向かつて近づいてくるものは、えてして楽しくないものが多い。これに対して、自分が向かつて行きたいものは、たいていは楽しいものである。ここに受動か能動かの違いがある。

一方、休みの日の朝にはこんなふうに見えることもあるだろう。「今日は何をしようかな。あれをしようか、それともあれができるかな……」と。このように思いめぐらすものは、例外なく楽しいものではないか。楽しいものは、「やらなければならないもの」ではない。

しかし、中には朝起きたときに「今日は何をしようかな」などとのんびり考えているひまなんてない、という人もいる。また、「何をしようか考えても、何一つ思い浮かばない」という人もいる。

前者の人は、やらなければならないことが目白押し^{めくし}で、着替えて、走って、満員電車で飛び乗って、とにかく会社に行かなければならないのだ、ということらしい。一方、後者の「思い浮かばない」人^①というのは最近増えているように思う。じつくりと考える時間はあ

るのに、楽しいことは何も思いつかない、という困った状況^{じつじよう}らしい。これはどうしてなのだろうか？

原因の細かい理由は人それぞれだろうが、一般的な傾向としてあるのは、やはり豊かになった現代という背景である。用意された商品の「楽しさ」が多すぎるのだ。一例を挙げれば、「工作をしたい」「何かを作って楽しみたい」という人のために、親切でいいいな「工作セット」なるものが売り出されている。木材が全部その形に加工されていて、接着剤^{けいしやう}も入っている。組み立て説明図に従って、指定された順番の通りに作れば、はい出来上がり。自分で材料を集めるよりも手軽で、時として安いし、道具をそろえる必要もない。そういうものが世の中にあふれている。

B、そもそも工作というのは、楽をするために行うものだろうか？ いや、そうではない。工作は、楽しむためにする行為なのである。簡単な工作セットを説明書通り作った気でいても、はたから見たら、それは明らかに「作らされている」姿である。

工作だけの話ではない。旅行も行程があらかじめ決まったパック旅行になっている。料理もレトルト食品になり、ファッションも雑誌

を見て、写真の製品そのものを注文できる。すべてが親切に準備されている時代なのだ。こういう社会に生きていけば、ついつい楽なものを選んでしまうだろう。現代人は簡単に魅力的なことが周囲に多すぎるから、あれもやりたいし、これもやりたい、その結果として時

間がない。楽なものを選ぶ一番の理由は、できるだけ短時間で多くのものを体験したいからだだろう。

できるだけ短時間で楽しみたい、という欲求は、もし楽しめなかったときに時間的な損失^{そんしつ}を最小限にしたいという気持ちから生じるものかもしれない。新しい分野に入門するとき、もしそれが自分に向かないものだったら、早めに止めたい。

C、最初は短時間で体験できるものを選ぶ。これも楽なものを選ぶ動機の一つと言える。

しかし、重要な点を忘れている。それは、時間をかけなければわからない「楽しさ」というものがある、ということである。もっと言えば、時間をかけること^②、本当の楽しさは味わえないのだ。

結局、お膳立て^{おぜんて}された「楽しさ」をどれだけ試^{ため}してみても、本当の楽しさは味わえない可能性が高い、ということだと思う。こういった「楽しさセット」をながめて育った世代は、あれも試した、これもやってみた、けどどれも面白くない、自分は何をしたいのかわからなくなった、もっと本当に楽しいものはないのか、と悩^{なや}んでしまう。

問題は、今あるものを選ぶことでしか「楽しさ」を得ることはできないと思いつている点にある。用意された小粒^{こつぶ}な「楽しさ」^③だけになっている果実畑を歩いてきたから、人生にはそういう道しかない、と勝手に決めつけている。道ばかり歩いていると、ついつい道しか歩けないと思いついてしまう。道以外も歩けることをすっかり忘れてしまうのだ。

くり返すが、こういった親切に満ちた道を歩むことが悪いわけではない。それで満足できる人はそれで良い。しかし、今ここで話題にしようとしているのは、「歩まされること」に何か物足りなさを感じる人の問題についてである。数多くのものにすでに手を出してしま

った人、あるいは感受性が強くて、少しでも不満があるとそれを「しかたがない」とあきらめられない人、身近に本当の「楽しさ」に満たされた人がいて、自分もあんなふうになりたいと考えている人、などが、この問題^④を抱^{かか}えている。道以外の地面に目をとめ、「もしか

して」と気づく人たちが。

つまり、本当の「楽しさ」とは、他者から与えられるものではない、ということだ。それは「自分」の中から作り出されるものである。そして、ここでもやはり「楽しさ」と「自分」が、言葉としても、実体としても、かなり近い位置にあることが理解できるはずだ。「楽しいことがない」と悩んでいる人は、**E**、「人と言いかえることができる。また、「自分を探す」ことは、**F**」を見つ

こととほとんど等しいのだ。

問一 — **A** **C** に入ることばとして適切なものをそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

ア しかし イ いわば ウ たとえば エ また オ そして カ だから

問二 — 線部 a s c の語の意味として適切なものをそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

a	ア	手にすると	イ	ともすれば	ウ	きつと	エ	得意げで	オ	もしかしたら
b	ア	たくさん	イ	自由に選ぶこと	ウ	精一杯	エ	予定通り	オ	強引
c	ア	順番通り	イ	手ぬき	ウ	指示	エ	美化	オ	準備

問三 — 線部①「これ」が指している内容を三十字以内で書きなさい。

問四 — 線部②「豊かになった現代」を、筆者はどのような時代だと述べていますか。本文中から二十字以内でさがし、その最初の五字をぬき出して答えなさい。

問五 — **D** に入ることばとして適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア だって イ により ウ でしか エ ばかり オ さえも

問六 — 線部③「用意された小粒な『楽しさ』」をもたらすものをまとめて、筆者は何と表現していますか。本文中から八字でさがし、ぬき出して答えなさい。

問七 — 線部④「この問題」の内容として適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア ものを選ばないと「楽しさ」を得られないと思ひ込んでいること。
イ 道ばかりを歩いたため、人生は道しか歩けないと勝手に決めること。
ウ 親切に満ちた道を歩くことで、その道に満足してしまうこと。
エ 「歩まされること」に何か物足りなさを感じてしまうこと。
オ 身近に感受性が強く、本当の「楽しさ」に満たされた人がいること。

問八 — 線部⑤「もしかして」と気づく」とありますが、この「もしかして」のあとに続くことばを補った次の文の空らんに入る七字のことばを本文中からぬき出しなさい。

もしかして「 」のではないか。

問九 — **E** **F** に入ることばとして適切なものをそれぞれ選び、記号で答えなさい。

E	ア	自分がない	イ	おもしろくない	ウ	まじめな	エ	やる気がない	オ	気楽な
F	ア	自分	イ	他人	ウ	楽しさ	エ	遊び	オ	道

問十 — 本文の内容として正しいものには○印を、正しくないものには×印を書きなさい。

ア 人は「ワークセット」を作っているようでも、実際には「作らされている」のである。
イ 最近の人はみんな、楽しいことが何もない困った状況におちいつている。
ウ パック旅行やレトルト食品は、時間のない現代人に必要不可欠な便利な商品である。
エ 人が楽なものを選ぶのは、短時間で楽しみ、また体験したいという欲求から来る。
オ 本当の楽しさは、今あるものから時間をかけて一番よいものを選んだ時に得られる。

【三】 次の各問いに答えなさい。

問一 次の①～⑩の 線部のカタカナは漢字に直し、漢字は読みを書きなさい。

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| ① 社長がネットウのあいさつをする。 | ⑥ 副総理が外相をカねることになった。 |
| ② 心臓のイシヨク手術は成功した。 | ⑦ 眼下には青い海が広がっていた。 |
| ③ いつの間にか彼と意気トウゴウしていた。 | ⑧ 最近の陰悪な国際情勢が心配だ。 |
| ④ 私は長年映画の構想をネっていた。 | ⑨ 私が心血を注いで作った作品です。 |
| ⑤ 余計な説明はハブきます。 | ⑩ 母は身を粉にして働いた。 |

問二 次の①～③の 色を表す漢字一字を入れて、慣用句を完成させなさい。

- ① 大勢の前で 是じをかかされた。
- ② 課長は 筋を立てて部下をどなりつけた。
- ③ むずかしい仕事を負う者として、彼に 羽の矢が立った。

問三 次の①～③の ア、ウに入る数字を足したときの、A 一番数が多いもの、B 一番数が少ないものを、それぞれ番号で答えなさい。

- | | | | | | |
|-----------|--------|-----------|---------|-------------|--------|
| ① | 一石 ア 鳥 | ② | ア 階から目薬 | ③ | 鶴の ア 声 |
| 三寒 イ 温 | | イ っ子の魂百まで | | 仏の顔も イ 度 | |
| ウ 死に一生を得る | | 四苦 ウ 苦 | | 一を聞いて ウ を知る | |

